

### 4.3 生態系の人為的な攪乱状況（外来種の分布状況）

鳥類の場合は、渡り鳥のように自ら大移動を行う種も多くいますが、アヒルなどのように家禽と飼われていたものや、ベニスズメなどのようにペットとして飼われていたものが逃げ出し、野生化して自然界へも広がっている例がみられます。

このような外来種が生態的に優勢な場合、在来の生物種を圧迫したり、自然界では起こらない交雑によって地域で保有されていた固有な遺伝子の喪失をもたらしたりすることで、生態系へ様々な影響を与えることが懸念されています。ここでは、人為的な生態系の攪乱を明らかにするために、外来種ではありますが同時に馴染み深い種でもあるコブハクチョウ、アヒル、ベニスズメ、また、特定外来種に指定されているソウシチョウ、カオグロガビチョウ、ガビチョウの確認状況について整理しました。

#### 【外来種（コブハクチョウ、アヒル、ベニスズメ、ソウシチョウ、カオグロガビチョウ、ガビチョウ）の確認状況】 (鳥類調査)

・ **外来種のアヒルを北海道を除く日本全国の一級河川 10 河川で多数確認**

外来種のコブハクチョウ、アヒル、ベニスズメ、特定外来種のソウシチョウ、カオグロガビチョウ、ガビチョウについて確認状況を整理しました。

コブハクチョウは関東地方の那珂川と中国地方の天神川と斐伊川で確認されました。アヒルは東北地方から九州地方の 10 河川で確認されました。ベニスズメは関東地方の多摩川で確認されました。ソウシチョウは多摩川、九州地方の筑後川で、カオグロガビチョウは

(資料掲載: 4-45 ~ 48、4-53 ページ)

確認河川数の比較（対象河川：28 河川）

種類	前々回調査	前回調査	今回調査
コブハクチョウ	4 河川	2 河川	3 河川
アヒル	3 河川	10 河川	10 河川
ベニスズメ	4 河川	3 河川	1 河川
ソウシチョウ	0 河川	0 河川	2 河川
カオグロガビチョウ	0 河川	0 河川	1 河川
ガビチョウ	1 河川	0 河川	4 河川

コブハクチョウは、ユーラシア大陸に広く分布している種であり、国内では動物園や公園等で飼育されていますが、逃げ出して、しばしば湖沼や河川で確認されるようになってきています。アヒルは、食肉と卵を取るためにマガモから品種改良された鳥類であり、農家などで飼育されていますが、逃げ出して野生化しています。ベニスズメは、ビルマからインドの河原やヨシ原、農耕地に生息する種ですが、観賞用として輸入されており、本州以南で野生化し繁殖しています。

コブハクチョウは関東地方の那珂川、中国地方の天神川、斐伊川で確認されました。アヒルは、本州以南の 1 級河川 10 河川で確認され、河川数は前回と変わりませんでした。個体数の多い河川は、中国地方の芦田川 (129 個体)、九州地方の筑後川 (49 個体)、関東地方の多摩川 (23

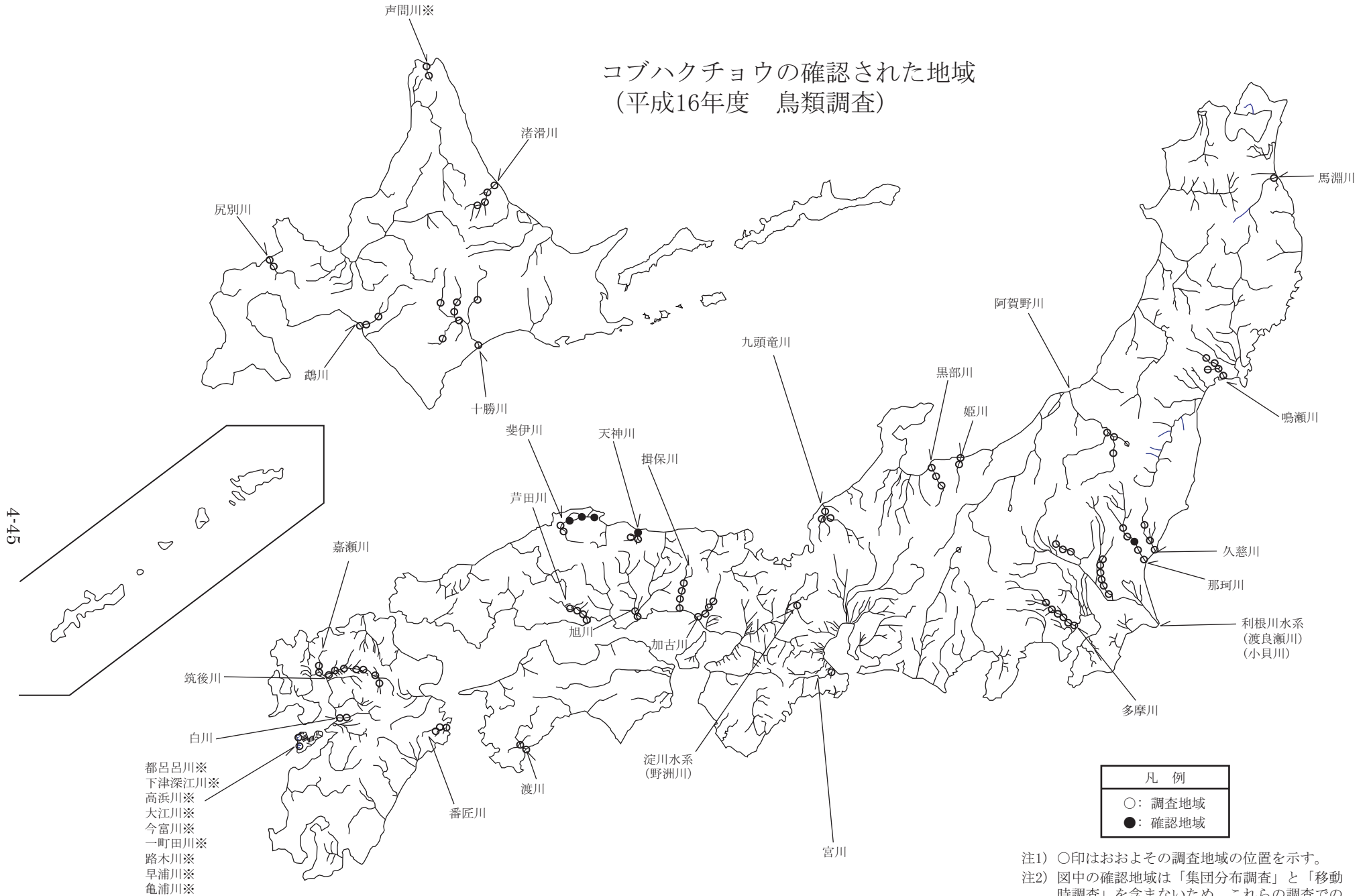
個体)などでした。ベニスズメは、今回は多摩川 1 河川のみで確認され、減少傾向にあると思われます。

特定外来種に指定されているガビチョウ、カオジロガビチョウ、カオグロガビチョウは、いずれも東アジア、東南アジアを原産とする種ですが、主に鳴き声を楽しむためのペットとして輸入されていました。ソウシチョウも、東アジア、東南アジアを原産とする種で、観賞用のほか、伝統的な化粧品であるウグイスの糞の代用品として飼育されていたこともあります。いずれも飼育個体の逃亡ないしは故意の放出が、野外への定着の主因であるとされています。主に低地林に定住し、これらの種が優占しているところもみられ、長期的には在来種への直接・間接の負の影響も懸念されています。

今回の調査でカオジロガビチョウは確認されませんでした。ガビチョウが関東地方の那珂川、多摩川、北陸地方の阿賀野川、九州地方の筑後川の一級河川 4 河川、カオグロガビチョウが多摩川の 1 河川、ソウシチョウが多摩川、筑後川の一級河川 2 河川で確認されました。

(注：多摩川のベニスズメ、カオグロガビチョウは移動中の確認のみのため、「確認された地域」の図はありません)

# コブハクチョウの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)

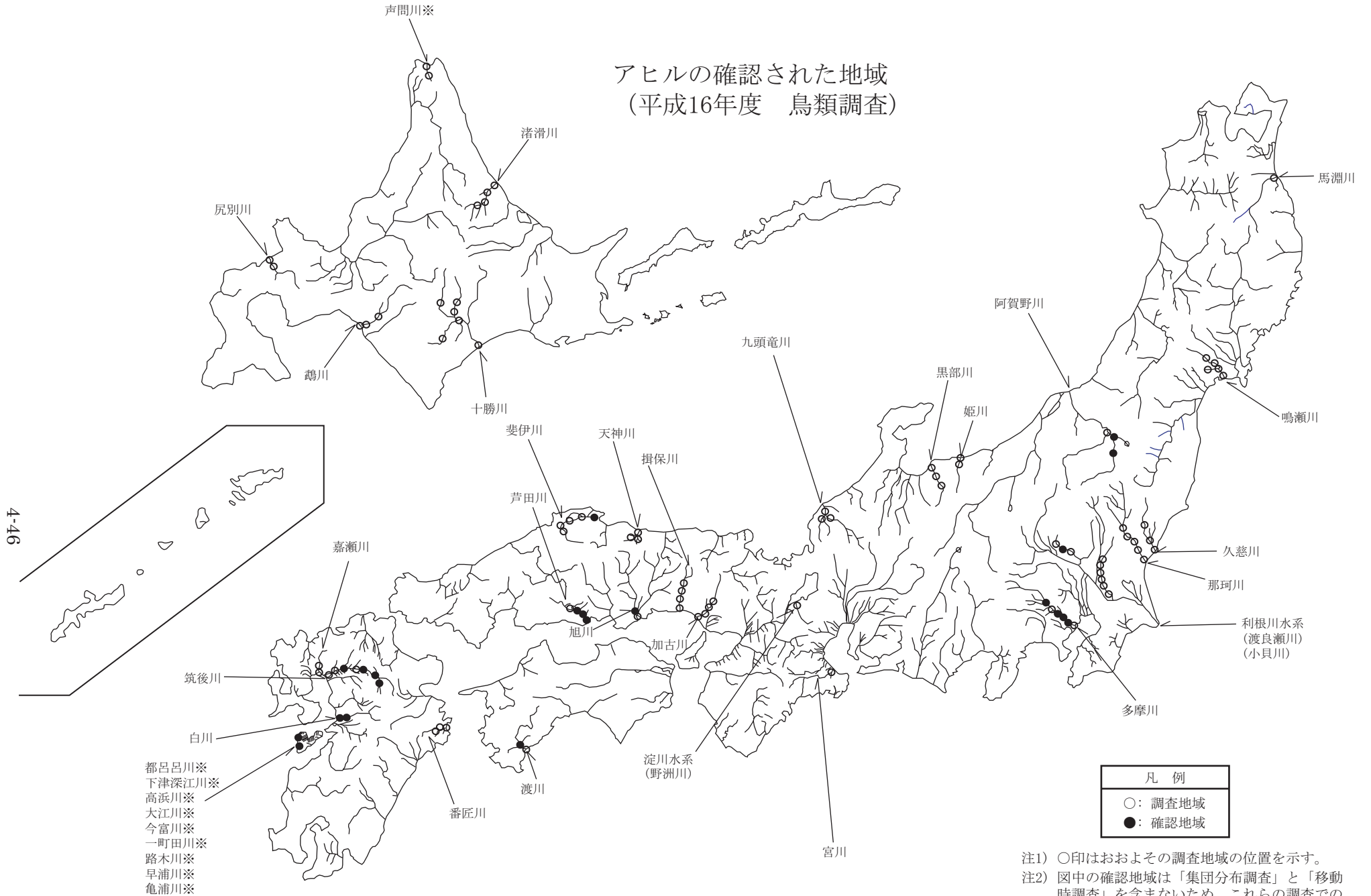


4-45

都呂呂川※  
 下津深江川※  
 高浜川※  
 大江川※  
 今富川※  
 一町田川※  
 路木川※  
 早浦川※  
 亀浦川※

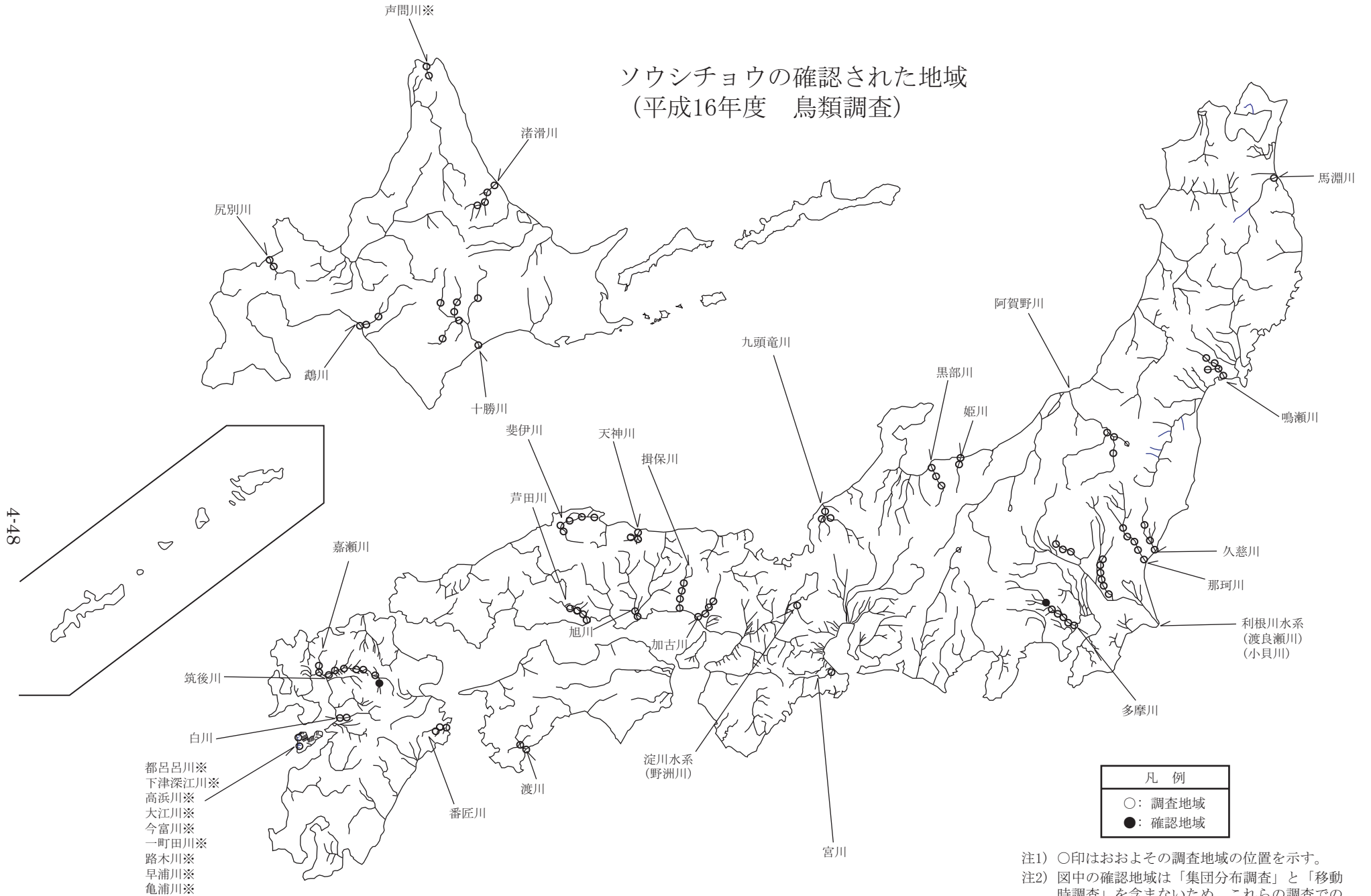
声間川※  
 尻別川  
 鵜川  
 十勝川  
 斐伊川  
 天神川  
 揖保川  
 芦田川  
 旭川  
 加古川  
 淀川水系(野洲川)  
 渡川  
 番匠川  
 白川  
 筑後川  
 嘉瀬川  
 九頭竜川  
 黒部川  
 姫川  
 阿賀野川  
 宮川  
 多摩川  
 利根川水系(渡良瀬川)(小貝川)  
 那珂川  
 久慈川  
 鳴瀬川  
 馬淵川

# アヒルの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

# ソウシチョウの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)

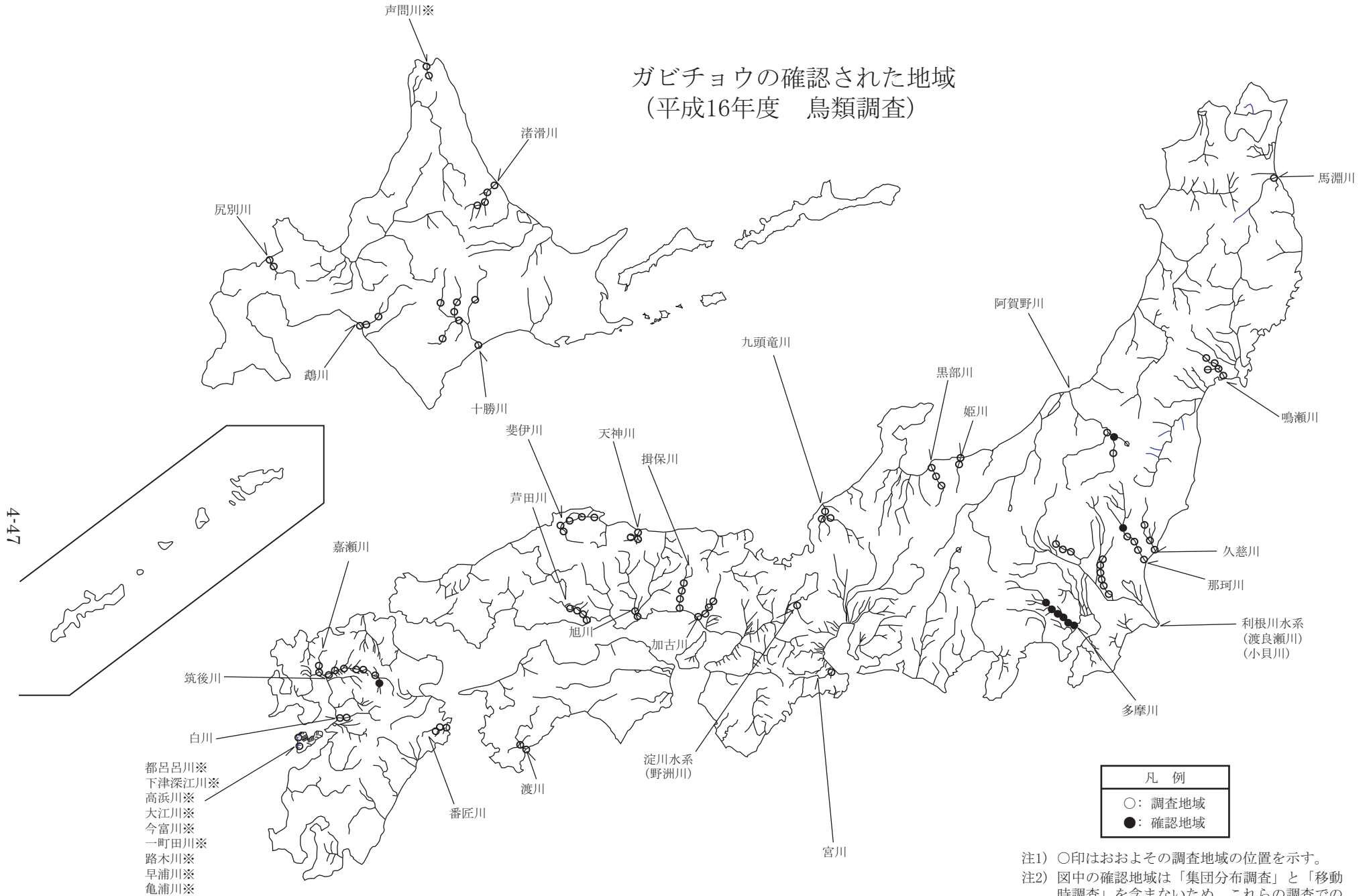


4-48

凡例	
○	調査地域
●	確認地域

注1) ○印はおおよその調査地域の位置を示す。  
 注2) 図中の確認地域は「集団分布調査」と「移動時調査」を含まないため、これらの調査でのみ確認された場合は図示されない。

# ガビチョウの確認された地域 (平成16年度 鳥類調査)



### 外来種の確認個体数

地方	河川	カモ目		スズメ目			
		カモ科		カエデチョウ科	チメドリ科		
		コブハクチョウ	アヒル	ベニスズメ	ソウシチョウ	カオグロガビチョウ	ガビチョウ
北海道	渚滑川						
	尻別川						
	鶴川						
	十勝川						
東北	声間川						
	馬淵川						
関東	鳴瀬川						
	久慈川						
	那珂川	1					3
	利根川（渡良瀬川）		1				
	利根川（小貝川）						
北陸	多摩川		23	1	1	1	47
	阿賀野川		7				3
	姫川						
	黒部川						
中部	宮川						
近畿	淀川（野洲川）						
	加古川						
	揖保川						
	九頭竜川						
中国	天神川	10					
	斐伊川	4	5				
	旭川		14				
	芦田川		129				
四国	渡川		2				
九州	筑後川		49		2		4
	嘉瀬川		3				
	白川		22				
	番匠川						
	都呂々川						
	下津深江川						
	高浜川		9				
	大江川						
	今富川						
	一町田川		3				
	踏木川						
	早浦川						
	亀浦川						

注) は2級河川を示す。